



熱中症の予防方法

【屋外】暑い季節の外出時刻には注意が必要です。
お散歩の際にはアスファルトをさわって確かめてみましょう。
こまめな給水を心がけ、時には体表に水道水をかけ流すのも良いでしょう。

【室内】風通しを良くしておくことや、室内の温度は26℃以下で維持するようにしましょう。

【車内】外気温が25℃を超える環境下では締め切った車の中に置くことは避けましょう（活動的な犬や興奮しやすい犬の場合には、さらに低い気温でも熱中症のリスクがあります）。
いつでも自由に飲水できるようにしましょう。



症状と対処法

熱中症になってしまったら、まずは早急に治療をすることが大切です。
下記症状から90分以内に対処が必要です。

【初期症状】

ハアハア激しい呼吸、よだれ、舌や結膜などの充血、頻脈など

【重篤化した場合】

ぐったりとする、嘔吐下痢、ふるえ、意識消失、けいれん発作

全身に常温の水道水をかけて冷却したり、水道水で濡らしたタオルなどで包み、涼しい場所で風を送り、直ちに動物病院を受診してください。

ただし応急処置の際に、早く体温を下げようとして冷水や氷で急激に冷却すると、抹消血管が収縮し、温度の高い血液が各臓器に循環します。そうすると熱を発散しにくくなり、深部の体温が下がらないまま高体温による各臓器への障害が促進されて逆効果となるため、注意が必要です。